

日本共産党国会議員団 東海ブロックニュース

2019年
9月26日
第2号

日本共産党国会議員団東海ブロック事務所
名古屋市中区新栄三丁目十二番二十五号
電話 〇五二(二六四)〇八三三
FAX 〇五二(二六四)〇八五〇
Eメール tokai@ccpdyb.ne.jp

事業認可から5年、大規模な環境破壊など様々な問題が噴出しているリニア中央新幹線事業について、現場の声を聞き、住民の運動を交流しようとする日本共産党国会議員団リニア対策チームと東海・北陸信越ブロックが19日から21日、現地調査と住民・関係者と懇談交流会を行いました。(懇談交流会の様子は次号に掲載)

参加した国会議員・候補

もとむら伸子、高橋千鶴子、清水忠史・各衆院議員、たけだ良介、井上さとし両参院議員、島津幸広前衆院議員



日程
●19日 長野県豊丘村、南木曾町 調査と懇談
●20日 岐阜県恵那市、中津川市、瑞浪市 調査と懇談
●21日 名古屋市内 リニア工事5年、事業再評価を求める調査と交流懇談会



中津川・山口トンネル非常口の陥没現場



日吉トンネル工事のベルトコンベア

(もとむ) さんは「静かな集落を、子々孫々までそのまま残したい。それが住民の思い」と話しました。陥没事故が起きた中津川市の山口トンネル非常口工事現場では、事故の際に、「ドーン!」と大きな音がして住民たちはびっくりしたといいます。同トンネルは阿寺断層帯を通り、阿寺断層帯と陥没事故との関係が心配されますが、国土交通省からの説明はありません。

岐阜県リニアを考えるネットワーク代表の庄司善哉さんは「リニア本体に比べ、断面が小さい非常口トンネルでも陥没が起きた。本体トンネルはさらに難しい工事になる」と指摘しました。

山口トンネルに近い木曾川の河川敷には、基準値を越える有害物質が入った土(要対策土)の置き場が作られています。近くには飲み水の取水口もあるとのことでした。

瑞浪市の日吉トンネル工事現場では、残土を処分場へ運ぶ全長2キロにわたるベルトコンベアや処分場、基準値を超える有害物質を含む土砂の仮置き場などを調査し、住民と懇談しました。

岐阜県 地域分断、騒音・振動、トンネル陥没、水質、土壌汚染、残土処理など問題山積み

20日は、岐阜県の恵那市、中津川市、瑞浪市の現地を調査、住民と懇談しました。

恵那市大井町野畑では、リニアが盛り土して半地下構造で通過することによって地域が分断される影響を住民から聞きました。リニア問題を考える恵那市民の会の奥村正志さんは、浅いところをリニアが通ること「騒音、振動の影響が何もないことはないだろう」と語りました。調査の様子を見ていた地域の住民も集まり、不安な思いが話されました。

同市岡瀬沢地区では、リニアが地上を走るため、住民が防音フードの設置を求めています。JR東海が応じておらず、住民らは中心線の測量を認めていません。

岡瀬沢リニア委員会会長の可知于

長野県 残土置き場計画に不信 水源など町とJRなどが5項目で確認文書

もとむら伸子衆院議員とたけだ良介参院議員は19日、長野県豊丘村と南木曾町を調査しました。

豊丘村では、住民の根強い反対で、16年にJR東海が残土置き場計画を白紙撤回した経緯があります。別の場所で計画があります。原章さんは「住民の声を聞くべきだと署名に取り組んでいる」と話しました。



南木曾町では、勝野実副町長らと懇談。今年8月、町やJR東海など4者で、工事の安全や水道水源確保などに関し、5項目の確認事項を結び、今後、それぞれの項目についても別途文書で確認していくとしています。

リニアトンネルによって同町の大きな3つの水源が枯れるかもしれないという問題があり、勝野副町長は「水道水源の問題が解決しない限り、ゴーサインは出せない」と語りました。